



わたしの日本日記 — ツルの中に入っているTOKYO

翻訳 木下哲夫

あのアン・キャリントンが突然、編集部にやって来ました。
ロンドンの街に捨てられた生活廃棄物を、ファンシーなおブジエに仕立て上げてしまおう彫刻家
アン・キャリントンのことが日本で初めて紹介されたのは本誌「昨年2月号」でした。
何でもNTTのポスターになるために、作品を抱えて来日したというのです。

たぶん皆さんがこの記事を眺まれる頃には、街のあちこちで、
ブリキ製のびかびかのさやえんどうの頭には、おウジエを抱いた
アンのチャーミングな笑顔に出会うことでしょう。

そこで「アンの質問!」東京のゴミについてご意見をどうぞ。
そしたらロンドンに帰ってすぐ送ってくれたのがこのコラムです。(編集部)

わたしの彫刻作品は、街て目につく
ゴミを通じて見た世界を悪かれた
ように記録した日記とスケッチブツ
クをもとに制作されます。ありきた
りのものから、魔法のような魅力
備えたものを創りたいです。つまり
ゴミをひとの欲しがらるものに変え
ること、それがわたしの仕事です。ど
ぶに捨てられた品々から靈感を得て
作るわたしの彫刻は、そうした
事態を起す引き金となった使い捨て
文化や生産過剰で浪費的なわたした
ちの文明、そして自然の乱開発を
率直に批評します。

本が表紙によって判断されること
があるように、都会もそれが生み出
す廃棄物によって判断されるのでし
ょう。ですから、世界でも最先端の
浪費社会である東京の姿は、ゴミの
中に映っているともいえるのです。

最新の技術、最新のデザインを悪か
れたように追い求める社会では、去
年の型でもゴミ箱行きとなります。
次々とゴミを生み出して行く東京が、
世界でも屈指の無駄遣い社会である
ことはまちがいないありません。

厳しい表情をした群衆、交通渋滞
そして狭い路地は閉所恐怖症的な東
京の特徴を示しています。ロンドン
であればこうした条件は直ちに治安
の乱れや犯罪、そして何マイルも続
くゴミの山に結びつくはずで、と
ころが東京ではまさにその正反対に、
社会の底流に秩序感覚があるため、
街は穏やかで犯罪もなく、しかも清
深このうえありません。まともなゴ
ミを探すとあると鶴の目、鷹の目
しかも見つけたら一瞬の猶予もなく
サツと手を伸ばさなくてはならない
ほどです。

東京の魅力と美しさは、ほかの都
会とは違って、コンクリートで固め
られた表面の裏に隠されています。
そこには古いものと新しいものが共
存していて、京都と奈良の年経た伝
統が現代的な生活のあちこちにしつ
かりと織りこまれていのです。技
術の粋を集めたオフイス街と肩を並
べるように神社が建ち、またキオス
クには達筆な書が人びとの注意を引
こうとして、クズのような漫画的イ
ラストと競いあっています。わたし
が蒐集した紙クズの数々にも、こう
した精神分裂症的なデザイン感覚が
反映しています。日本人はミニマリ
ズムの巨匠であると同時に、キッチ
ユの大家でもあるのです。

日本の文字の目新しさ、新鮮さが
あるために、平凡このうえないゴミ
の見本が限りなく好奇心をそそる刺



アンの作品「
[きやんどん]」

激的なものになりました。わたしに
とって日本の文字に触れる体験は、
文字を書く人に畏怖すると同時に、文
字を純粹に抽象的な形として楽し
みながら、それを読むことはできない
という幼い子供の受ける印象に通じ
るものだろうと思います。

ロンドンのアトリエに帰った今、
袋やノートにいったばいの拾い集めた
品々が手元に残りました。成田空港
からの切符、鎌倉の寺の入場券、東
京デイズニールランドの領収書、浅草
の買い物袋、十円菓子の包み紙、そ
して染みをついた酒瓶のラベル。こ
うした寄せ集めの名残の品々から、
わたしは東京での冒険を再構成し、
再体験しようと思っています。

【用語解説】
「ミニリズム」Minimalism: ミニルと
いうのは、最小限の、ということですが、ア
ートでは色と形のこと、表現の最小限の
要素で作品を作ることで、表現の純粋性を
求めようとする行き方をいいます。カール
アンドレやフランク・ステラなどの作家に代
表されます。ここでは現代美術の用語を下
敷きにして、日本の書や神社のシールな造
形を、表現要素の最小限主義(ミニリズム)
だと捉えているのです。
「キチユ」Kitchy: 通俗的なとか浅薄な
作品、まがいもの、といった意味。私達の回
りを見回すといかに、本物とそうくりの
ものか混濁して、いかに驚きまます。ほん
のそうくりのプラスチック製の旅行とか、
屋根裏部屋にも無いくせに飾りだけのため
に、屋根がレックの間に窓がない窓がついて
ヨーロッパのプレッパ住宅、ヨーロッパのお城
とそうくりの何とかバリス結構式場、もう一
外国の旅行者が日本で必ず驚くものにス
トラや食堂の料理とそうくりの見本がありま
すね。アンのような旅行者から見ると日本
はどうしたキチユのワンダーランド(不思議
の国)に見えるもそうです。中には有名ブ
ランド商品のとそうくりさん店が並んで、と
うとうと偽物の店と断つて売る店が出現し、と
いうに至っては私達の中に潜る本物信仰
にたいするひびきかえを感じて微笑まし
くさへあります。ただしこの場合偽物の
店、と断ることにして、本出(本物の
偽物と断る)ことになって、本出(本物の
偽物)は本物信仰の一翼を担うことになっ
てしまっています。極く一般には「一品創
作」高級品を大衆化するために「廉價作
品」として起る通俗品出現象を指しています。